

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

茶におけるチャノミドリヒメヨコバイの発生状況及び防除対策(技術情報第2号)  
について(送付)

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので業務の参考としてご活用ください。  
記

茶において、チャノミドリヒメヨコバイの発生が平年より多い状況にあります。多発園では、三番茶の被害及び秋芽生育期の発生による翌年の生育への影響が懸念されるため、本害虫に焦点を当てた適期防除に努めましょう。

### 1 発生状況

- (1) 6月中下旬の巡回調査(県内8園地)における平均寄生葉率は7.0%(平年2.8%)、平均被害芽数は10.8本/m<sup>2</sup>(平年1.9本/m<sup>2</sup>)と平年比多の発生であった(図1、2)。
- (2) 茶業研究所(御船町)の予察ほ場における6月第5半旬のたたき落とし調査捕獲頭数は、21頭/10か所(平年10頭/10か所)と平年比やや多の発生であった。

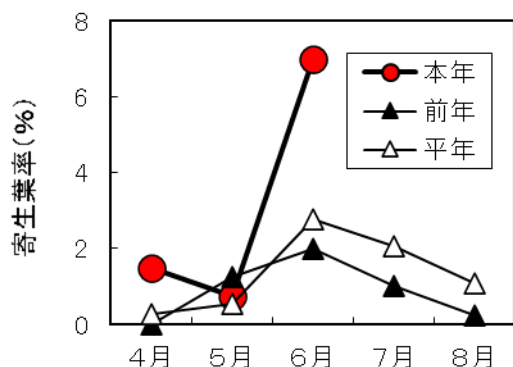


図1 寄生葉率の推移

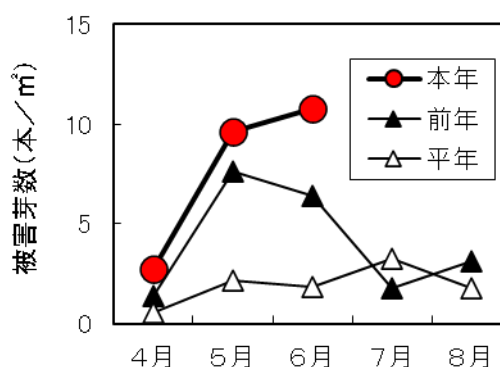


図2 被害芽数の推移

### 2 今後の発生予想

福岡管区気象台が6月29日に発表した九州北部地方1か月予報によると、向こう1か月の降水量は平年より多い予想であるが、気温は平年より高い予想であり、今後も本害虫の発生密度が平年より高い状態が継続する可能性があります。すでに多発している園では、秋芽の被害も懸念されます。

### 3 防除対策等

本害虫は成虫で越冬し、年6~8回発生します。卵は約1週間でふ化し、夏期はふ化後約半月で成虫となり(30℃で約15日、15℃で約40日)、成虫は約1か月間生存するため、二番茶以降は成虫と幼虫が混在した状態となっています。また、成虫・幼虫ともに

新梢部の柔らかい葉を加害するため、新芽の開葉初期に合わせて薬剤散布することが最も重要ですが、伸長期間が長い秋芽を保護するためには複数回の散布が必要となります。多発園では以下のポイントに留意し、効果的な対策を行いましょう。

- (1) 各茶芽の萌芽期から1葉開葉期に薬剤散布を行う。成虫は飛翔移動するため集団茶園ではドリフトに注意し、一斉防除を図る。散布の際には、すそ部を含め薬剤がむらなく行き渡るよう十分な量を散布する。
- (2) 可能な限り他の害虫との同時防除を行い、本害虫に対する防除機会を増やす。熊本県病害虫防除所のホームページ (<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/168705.html>) に他の害虫の防除適期に関する情報(トラップ誘殺消長、羽化・ふ化最盛期予測等)を掲載しているので、参考にする。薬剤の選定に当たっては、他の害虫を含む薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同系統剤の連続使用及び多数回使用を避ける(表1)。
- (3) 農薬を使用する際はラベルの表示をよく確認し、使用基準を順守する。対象害虫によって希釈倍数や散布液量が異なるものがあるので注意する。

表1 茶のチャノミドリヒメヨコバイで熊本県防除指針に採用のある農薬(参考)

薬剤名	成分(総使用回数)	IRACコード	使用方法 (希釈倍数)	同時防除が可能な他の害虫※			
				チャノキアザミウマ (2000倍)	チャノホソガ (2000倍)	チャノコクモンハマキ (2000倍)	ツマゲロアオカスミメ (3000倍)
アクタラ顆粒水溶剤	チアマトキサム(1回)	4A	散布 (2000~3000倍)	●	-	-	○
アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド(1回)	4A	散布 (1000倍)	●	○	-	-
アブロード水和剤 (幼虫を対象に登録有)	プロロフェジン(2回以内)	16	散布 (1000倍)	-	-	-	-
アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤	ジノテフラン(2回以内)	4A	散布 (2000倍)	●	●	-	○
ウララDF	フロニカミド(1回)	29	散布 (1000~2000倍)	●	-	-	●
オルトラン水和剤 ジェイエース水溶剤	アセフェート(1回)	1B	散布 (1000~2000倍)	●	-	○	-
ガンバ水和剤	ジアフェンチウロン(1回)	12A	散布 (1000~1500倍)	●	-	-	●
グレーシア乳剤	フルキサメタミド(1回)	30	散布 (2000倍)	●	○	●	-
コテツフロアブル	クロルフェナピル(2回以内)	13	散布 (2000倍)	●	-	○	-
コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン(2回以内)	9B	散布 (2000~3000倍)	●	-	-	●
ダントツ水溶剤	クロチアニジン(1回)	4A	散布 (2000~4000倍)	●	●	-	○
パダンSG水溶剤	カルタップ(1回)	14	散布 (1500倍)	●	○	-	-
ハチハチ乳剤	トルフェンピラド(1回)	21A	散布 (1000~1500倍)	●	●	-	○
ベストガード水溶剤	ニテンピラム(2回以内)	4A	散布 (1000~2000倍)	●	-	-	-
ロディー乳剤	フェンプロパトリン(1回)	3A	散布 (1000~2000倍)	●	○	○	●

※ ●: 熊本県病害虫防除指針採用  
○: 農薬登録あり

熊本県病害虫防除所  
(農業研究センター生産環境研究所内)  
担当: 清永、岡島 TEL: 096-248-6490